

(2) 大会以後の情勢

大会を期として東交は、表面的にも過去の暗斗内紛から脱し得た。電氣局第一更生案樹立経過は二分三裂の状態を續けて来た従業員にとつては組合統一強化への動機となり拍車となつたと言ふ得やう。大会翌日の五日、新本部に依る執行委員会は前記の如くへ大会記事参照) 争議部以下各部専門部長及副部長を決定して陣容の整備と圖つた。

其後當局は更生案に依る、乗客サービス改善を圖つて、電車、自動車乗務員従来の弊風を改めしめんとした。之に對し東交本部は直に通達と各支部宛發して、本部の見解を表示し、機械的のサービスや更務者用語に依つては眞実のサービス改善は圖り得ない、要は精神のなサービス、眞実なる態度を以て處し、市電乗務員として市民の好感を求むべきであるとなした。

更に當局の提案した、當局者及従業員兩派に依る乗客待遇改善委員会設置に對しては、本部執行委員会及本部電車部自動車部三派合同協議会日之に賛意を表し、唯委員選出方法に關して、原則として支部役員中より選任し、本部員は當然委員会に参加すべく、當局に

定活することとした。

一註 十二月廿日當局方針通り選挙終了

十一月十二日の本部執行委員会は、大会に於ける決議事項であつた財政確立委員会設置に關し協議し、左記十名を委員に選び、一

電 車 部 村 越 喜 一 須 田 菊 次 菅 原 正 松

自 動 車 部 遠 田 秀 次 植 木 健 平

電 氣 部 鶴 淵 英 夫

刺 工 部 佐 々 木 綱 吉

車 庫 部 池 田 大 吉

電 力 部 鴨 下 四 海 山 本 千 太郎 以 上

財務部長野平末私以下副部長及右十名の委員を以て組織され

政確立委員会は、十一月十七日及二十九日の二回に亘つて調査研究

した。その結果によれば、當時の本部賞與收額を基礎としてみると

き、納入組合員總數は七千三百六十九人と存つた。茲に改正案に依

り、本部賞與十銭として計上するときは、了交總しよりの家賃其他を如